

第11回 サポートホール高松デビューリサイタル

出演者インタビュー vol.2

3月4日(土) 第2部 竹野 壮一郎 / サクソフォン



～私にとって音楽とは？～

“感情を昂らせてくれる”存在から
“人との繋がりがや温かみを
思い出させてくれる”存在へ

高松市出身で、尚美ミュージックカレッジ専門学校コンセルヴァトワールディプロマ科にて研鑽を積んだ竹野壮一郎（たけの そういちろう）さんにインタビューしました。

— 今回、「デビューリサイタル」に応募した理由をお聞かせください。

過去に知人が出演しており、温かさを感じられる演奏会でした。また、サポートも受けられるということで、貴重な機会だと思い応募させていただきました。

— サクソフォンを始めようと思ったきっかけを教えてください。

サクソフォン奏者の須川展也さんの演奏を聴いて感動したため。クラシック音楽の演奏会は当時からとても好きでしたが、最初から最後まで目が釘付けになったことをよく覚えています。

— 心を動かされた曲や聴いてみてほしい曲はありますか？

クラシックであれば、モーツァルトのオーボエやピアノの協奏曲。ドビュッシーの弦楽四重奏曲。ショパンのバラード、ピアノソナタなど。サクソフォンだと真島俊夫さんのシーガル。

— コロナ禍で演奏活動が制限される中、特に大変だったことはありますか？

尚美の学校に在籍していたので、割り切って練習にレッスンと集中していました。ただ、レッスンもアンサンブルもパーティーで区切られていたり、ボックスの中に入っていたりと、人との距離を感じる時期ではありました。

— 最後に一言をお願いします。

この度は貴重な機会をいただき感謝しております。精一杯準備しますので是非会場にお越しください！